

日米ワークショップ

「環境に優しい社会基盤材料のライフサイクルアセスメント」

US-Japan Workshop on “Life Cycle Assessment of Sustainable Infrastructure Materials”

日時: 2009年10月21日～22日 9:00～

使用言語: 英語

場所: 北海道大学クラーク会館・大講堂

プログラム: ホームページでご確認ください

参加費: 20,000円(当日会場にて受付)

<http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~m16120/workshop2009/>

主催: 北海道大学

土木学会複合構造委員会

建設用先端複合材技術協会 (ACC)

Lawrence Technological University

Stanford University

National Science Foundation

基調講演:

✦ 藤田 壮 国立環境研究所アジア自然共生研究グループ 環境技術評価システム研究室長

✦ Prof Myint Lwin, Director, Office of Bridge Technology, US Federal Highway Administration

✦ 下村 匠 長岡技術科学大学 准教授

✦ Prof Kirk Steudl, Director, Michigan Dep. of Transportation

✦ 池田 憲二 北海道開発局 建設部 道路建設課長

✦ 井原 智彦 産業技術総合研究所 研究員

お問い合わせ・参加申し込み:

北海道大学大学院工学研究科 維持管理システム工学研究室

電話:011-706-6218 FAX:011-707-6582

Email: n-masaki@eng.hokudai.ac.jp

<http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~m16120/workshop2009/>

FRP (繊維強化樹脂, Fiber Reinforced Polymers) は、一般的にはその軽量性、耐腐食性、材料設計の自由度が、鋼やコンクリートに対する大きな特徴であり、鋼やコンクリートが適さない条件での適用、鋼やコンクリートでは考えられなかった新たな構造物や構造形式への適用も考えられる。

社会基盤施設を構成する建設材料は、他産業と比較すると必要な量が膨大であり、使用による環境への影響の考慮は大変重要である。社会基盤施設の構築、維持管理、解体・廃棄とその一生にわたるライフサイクルアセスメント(LCA)が不可欠なのである。

しかしながら、FRPの使用の有無によらず、社会基盤施設のLCAの手法、および、それに必要な、社会基盤施設のライフサイクル予測手法が十分に確立されていない。この確立なしには、第三の建設材料であるFRPの適用の妥当性を十分に示すことができないのである。

本セミナーにおいては、FRPの建設材料としての適用を進めるために、次のことを目的とする。

- 社会基盤施設のライフサイクルにおける自然環境、社会環境への影響の、経済的視点をも入れた評価手法の提示
- 上記の手法を用いて、FRPを適用した場合と、そうでない場合の比較と、FRPの適用がふさわしい場合の明示
- 残された課題の提示

上記の目的を達成するために、FRP建設材料の適用に関して種々の側面から関与してきた、日米および第三国(欧州とアジア)の産官学の専門家が一堂に会し、国際的に一致した方向性を報告書としてまとめ提示する。